

「アラル海地域に対する日本/JICAの活動」 日本学教育研究中心特任教授 飯田 次郎

本発表では、中央アジアの小アラル海地域における持続可能な開発の可能性をテーマとして、日本および国際協力機構(JICA)による支援活動について紹介した。特に、NGOを含む日本の支援実績を、カザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタンの各国ごとに整理・分析し、アラル海周辺住民の生活向上においては、社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)の形成が重要であることを示した。

また、JICAが重視する統合的水資源管理(IWRM)の考え方に触れ、流域協議体による「小さな成功」体験の積み重ねや、ローカルコンテキストを重視した具体的課題の解決の重要性について述べた。さらに、アフガニスタンにおける中村哲氏の活動を例に、日本の伝統的なかんがい工法にも着目する必要性を提言した。

加えて、中央アジアでは既に水需要が供給を上回る危機的状況にあることを指摘し、持続可能な水資源管理に向けては、流域各国が協調しながら創造的な解決策を模索していくことが不可欠であることを論じた。

